

令和7年度 第39回鹿児島県PTA連合会 「小学校、中学校、義務教育学校、高等学校、特別支援学校PTA広報紙コンクール」審査評

1 総合所見

- (1) 全ての校種において、テーマ性のある紙面づくりをして、PTA活動活性化のための広報紙づくりへの意欲と努力が感じられる。見出しや色使い、レイアウトなど工夫されて、読みやすい広報紙となっている。一方、市町村によって出品数に差が出てきた。
- (2) 小学校では、保護者が知りたい教育情報をテーマにした紙面が多く寄せられた。現在の学校・児童・保護者の課題にスポットを当てて、会員の声を引き出す工夫がなされていた。本年度は、大隅地区の広報紙が充実していた。
- (3) 中学校も、どの学校も、紙面づくりに工夫を凝らし、学校便りやHPとは異なるPTAの広報紙としての意図がうかがえた。保護者目線で、学校行事（体育大会、バザー、資源リサイクル、門松作り等）に、保護者としてどのように関わったかが伝わる内容となっていた。担当した時の感想（苦勞・喜び）、過程、反省点、収益等なども入れると興味深く読める。
- (4) 義務教育学校が増えるに従って、応募校も増えてきた。9年間連続した学校教育の良さや特長を生かした児童・生徒の成長の様子が見てとれる記事は、読んでいて大変楽しく興味深かった。
- (5) 高等学校、特別支援学校は、応募校も増え、質の高いものが多くなった。中でも、PTA活動について、わかりやすく伝えるように、写真やカット、見出しや記事の配置等に工夫を凝らしているもの、保護者向けのアンケートを実施して、読み手に問題提起しているものなどは、評価も高かった。
- (6) web版の学校が6校あった。特にPTAの仕組みや会費の使途等についてブログで載せており、紙媒体で見る機会が少ない会員への啓発が図られると思う。
- (7) 全校種に渡って、写真撮影の技術も向上し、生き生きとした児童・生徒の表情や素敵なアングルのものが多くなった。
- (8) 県PTA広報紙担当者研修会・PTA広報紙コンクール、県内各地での広報紙研修会の開催により、紙面の充実と質の向上が図られているのは喜ばしいことである。

2 今後の課題（留意してほしいこと）

- (1) 年間テーマ・年間編集計画等を策定し、計画的に取材、編集を行ってほしい。
- (2) 文字の大きさや書体、濃淡、色使いや余白の使い方など、基本的なことに気をつけてほしい。
- (3) 職員の紹介や学校の配置図などは、学校便りとは区別して別紙で配布すると、年間を通して利用できるのではないだろうか。
- (4) 編集後記があると、責任の所在が明らかになるとともに、新聞作成の意図や苦勞などが伝わって身近なものになってくる。
- (5) 今後も、他校の優れた広報紙を参考にしたり、広報紙担当者研修会に参加したりして、PTA広報紙の内容の向上とPTA活動の充実を図っていただきたい。